

## プレFDとは

プレFD (Faculty Development) とは、これから大学教員になろうとする大学院生・ポストドクター等のキャリア支援を目的とした活動のことです。教育開発・学習支援センターでは、2022年度より博士後期課程在学中の学生に向けてプレFDプログラムを実施しています。

本号では、プレFDプログラムの内容と、本制度修了者の声をご紹介します。

### 「プレFDプログラム」の概要 (3つの取り組み)

プレFDプログラムは、授業運営スキル吸収 → 授業運営の実践 → 実践へのフィードバックを想定し、現状、以下3つの内容で構成されています。

#### ①学部授業参観

「学生が選ぶベストティーチャー賞」を受賞した教員 (殿堂入り含む) の授業や、その他希望する教員の授業を参観することで、授業実施における工夫や手法等を体験します。

#### ②Lステゼミ

授業運営の実践の場として、Lステゼミの講師として登壇します。Lステゼミとは、学習ステーションが主催する教員等の講師が本学学生を対象に行うショートゼミのことであり、多様なテーマについて、気軽に学ぶ機会を学生に提供することを目的として実施しています。多種多様な所属・学年の学生に対して、授業運営の工夫を実践する機会となります。

#### ③授業リフレクションのための学生による授業参観

事前に研修を受けた学生FDスタッフに上記②Lステゼミを参観してもらい、授業の進め方等 (話し方・板書方法等) に関する学生視点の意見をフィードバックしてもらいます。学生からのフィードバックを受けて得た気づきを、今後の授業運営に役立てます。



### 「プレFDプログラム」修了者インタビュー

2023年10月12日 (木) に、本プログラムを初めて修了した井上 晴菜さん (人文科学研究科心理学専攻博士後期課程3年) にオンラインでインタビューを実施しました。インタビュアーは教育開発・学習支援センター 学習サポートユニット・リーダーの高橋美穂子教授 (経営学部)、同センター 教育サポートユニット・リーダーの秋野喜彦教授 (情報科学部) が務めました。井上さんからは、インタビューを通して、教員対象の制度 (教員による授業相互参観) の存在や、学生FDスタッフ (授業リフレクションによる学生による授業参観担当学生) の研修内容について知ることができ、大変有意義だったとの言葉をいただいています。

今回伺ったご意見等は、今後の本プログラムの改善と発展に活かしていきます。

#### ■インタビュー内容 (抜粋)

##### (1) 参加に至った背景と動機

主な理由は、教員採用の履歴書に書くことを増やすためです。現在、大学教員の公募へ応募している状況で、その際に提出する履歴書に大学生を対象に講座を開いたという旨の記載ができると考え、今回のプログラムに参加させていただきました。

##### (2) これまでの教育歴

2022年度より、兼任講師として授業を担当しています。

##### (3) 各取り組みを終えての感想

###### ◆学部授業参観

自分と同じ専門分野の教員の授業を聴講でき、授業運営の参考になりました。特に、授業内で行われていた学生へのフィードバック方法についてはぜひ今後取り入れたいと思います。

###### ◆Lステゼミ

オンライン授業でもアクティブラーニングを取り入れられるようGoogleフォームを使用しました。ゼミ中に受講生に適宜回答してもらい、集まった回答を画面で共有する方法を取りました。多くの人が回答し、参加者の反応を互いに見ることができ良かったと思います。

###### ◆授業リフレクションのための学生による授業参観

事前にお願っていた、受講中の学生の様子を見てもらうことはできませんでしたが、臨機応変に私の授業運営に関して集中して見てくれました。参観学生3名からそれぞれ異なる視点の意見をいただき、大変参考になりました。



##### (4) プログラムの改善点・その他サポートの要望

- ・Lステゼミについて、参観学生からの授業運用に関するフィードバックに加えて、受講生からも理解度や感想等のフィードバックが欲しいと思いました。フィードバック内容については自分で設定できればなお良いと思います。また、可能であればFDスタッフ (学生) だけでなく教員にも参観してもらい、コメント・フィードバックをいただけると良いなと思いました。
- ・本プログラムで初めて大学生に対して講義を実施する大学院生もいるため、授業内でアクティブラーニングを取り入れる方法等、授業運営をサポートする動画やツールを共有いただくと良いと思います。
- ・心理学の先輩方より、他学部教員 (例えば、データサイエンス系やプログラミング系の方) と共同研究をしているとよく伺っていて、他の専攻分野との協働・交流等は重要だと感じています。プログラムとして、他の専門分野の教員のところに研究上の相談、あるいは演習を聴講させていただく機会があると良いのかなと思いました。